# 満月を洗う

写真と文が響き合
い物語を作る

みのすけ

# 目次

**猫ママ** . . . . . 1
**レトロな電話ボックス** . . . . . 4
**神様からの伝言** . . . . . 8
**猿の惑星** . . . . . 10
**お知らせ** . . . . . 14

# 猫ママ

ＤＳＣ＼

**猫ママ**
私はこの店の猫ママ。商売上手で続々新装オープン。
え～商売のコツが知りたいの？

それは、お客様に可愛がられる事。
猫撫で声に愛が有るのが私の武器です。

○

**満月を洗う**

月には多くの探査機が打ち上げるられ、人間の欲で汚れている。
さあ洗濯だ、洗濯だ。

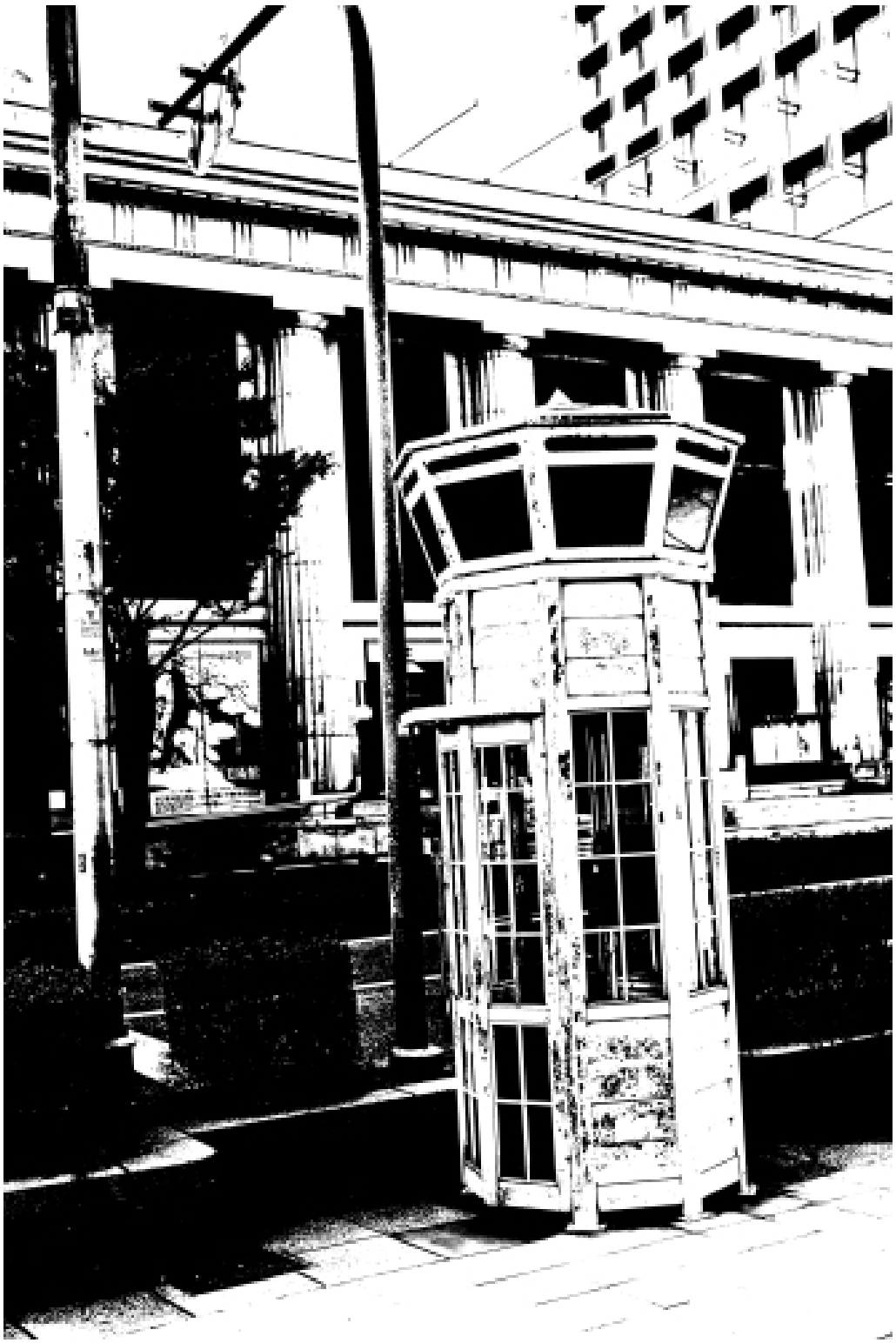
月と噴水との多重露出撮影です。

○

**人の世**

「知に働けば角が立つ，情に棹させば流される」諺に納得。
人生を熟考し、流れに強いモーターボートに変更。
横波に弱く、ひっくり返り一命を取り留める。
とにかくこの世は住みにくい。
もう人生の荒波には手泳ぎしかない。

レトロな電話ボックス



ＤＳＣ＼

**レトロな電話ボックス**

買い換えたデジタルカメラを持って神戸を散策していた。

レトロな電話ボックスを見つける。
ファンタジックな夢に詰まったお洒落な写真に挑戦する。

しばらく撮っていると突然、電話ボックスの電話が鳴った。
けたたましい呼び出し音は、私の思考回路をかき乱し不安感を煽る。

電話ボックスの傍には私しかいない。
受話器を取らなければとの強迫観念で、恐る恐るドアを開ける。
閉ざされていたボックス内は太陽光に照らされ暑く、少しカビ臭で蒸せる。

電話からは弱弱しい女性の声。
何か不安を訴えているようだ。
難聴の私には聞こえづらいので、大きな声で言うようにお願いする。

内容は聞き取り難かったが、声には確かに聞き覚えがある。
探している彼女に違いないと思い、相手に彼女の名前を言ってみた。
相手は小さな声で弱弱しく違うと言う。

私はその弱弱しい声に確かに聞き覚えがある。
暫く仲良くお付き合いしていたが、突然連絡が途絶えてしまった。
私の心の中では彼女は存在し続けている。
彼女への心配や再開の喜びが混じり合い、色々近況を聞いてみる。
一瞬、バツの悪い沈黙が訪れたので、私は質問を止めた。

彼女は私の事を忘れているだと思い、その当時のデートの楽しかった事を話す。
相手は弱弱しい声で違います、違いますの一点張り。
私は彼女に現状の寂しかった気持ちを打ち明けた。
相手の弱弱しい声から突然溜息が漏れ、電話を切られてしまった。

何故電話は切れたのだと私は憶測する。
あの電話の傍には悪い男がいる。
その男は私との電話だと気づいたので、彼女に電話を切らしたのに違いない。
きっと彼女は私を危険な目に合わせたくないので、自ら電話を切ったのか？
心優しい彼女はきっと私の助を待っている。
早く彼女を助けねばならない。

偶然だったが神戸に来てよかったと私は再会を喜んだ。
私の心にはあの弱弱しい声は彼女に間違いはないと言う確信だけが残った。
そして、人生を掛けて彼女を探す旅を続けることになる。

# 神様からの伝言

ＤＳＣ＼

**神様からの伝言**

私の上司は会社では神様と呼ばれ、社員から慕われている。
その上司から次のプロジェクトの責任者に君を推薦しようと思う、
直ぐにでは無いので、よく考えて連絡してくれと言われた。

帰り道に日常化している喫茶店のいつもの席に座る。
薄暗い喫茶店の窓から隣のビルをボーッと眺めながら将来を夢想する。
私にもやっとチャンスが巡ってきたようだとほくそ笑む。

私から言い出すのが気まずかったので、上司との話の機会を窺った。
１か月は瞬くうちに過ぎてしまった。

神様からの連絡が無いのでしびれを切らし、自分から回答しに行った。

神様の顔に緊張感が走り、目が斜め前の天井を見つめて悩んでいる。
神様は意を決したのか、韓君から「自分にやらせてください」と進言されたとの事。
彼の熱意に負け、彼はその準備に取り組んでいる。
実は君からの連絡が無いので、私は諦めていたと話された。

暫くすると神様が私の所に来て、彼の大雑把な性格では無理だった。
再び私に頼みたいと言って来た。
よく考えといて呉れとの事。
今度は 1 週間後に神様に連絡すると、又もや中君に決めたと即答された。
中君は要領の良い男で、誰でも知っているのに何故かと問いただす。
神様は中君の熱意に負けたと言った。
神様は能力より熱意に弱い。

又もや中君も失敗し、今度は神様にも責任が及ぶらしい。
またもや神様は私の所にやって来て、最後のチャンスに私を推薦したいとの事。
私は神様が決めれば良いのではと進言する。
神様は自分が決めればその責任を取らなくてはならないと言い訳をする。
神様は自分で決める決断力が無かったのだ。

本社の大魔王から神様と私が呼ばれた。
もうあの部署を解散しろと命令が下った。
この部署はどうにもならない窓際族が集まっているらしい。
最後の望みを託して神様は派遣されたが、成果が上がらなかった。
失敗に三回目はない。
私は大王様から、何故積極的にプロジェクトに加わらなかったのかと聞かれ、
能力はあっても熱意の弱い、めんどくさがりの私は叱られた。

大王様は言う「もう仲良しクラブは要らない、仕事が出来る人を集める」
息子である”神よ”　これからの世は親の七光りで優しさや甘いだけではダメだ。
2 人共厳しい他国で修行して来いと放り出された。

# 猿の惑星

ＤＳＣ＼

**猿の惑星**

この猿の惑星も厳しい世界だ。

人間と言う神から僅かに餌を与えられる。
神から与えられた餌は、仲間内で取り合いだ。
怒りや喜怒哀楽が強い武器になる。

神の世界も餌や資源を奪い合い、他国では紛争になっている。
しかし、この国の神は怒らない。
喜怒哀楽や欲望が無くなったのが神なのか？
何故神は怒らない。

---

**大河の吐息**

淀川からは、水中で永らえた恐竜の荒い息づかいが聞こえる。
人間の強欲が支配した、自然環境への反撃チャンスを待っている。
恐竜の高まる動悸は人間の理性と感情を支配し、人間が造った最大の武器で紛争を呼ぶ。
何時になったら、人間は独占欲を捨て、静かで美しい太古の自然を取り戻せるのか。

# お知らせ

**お知らせ**

オリジナル写真は写真素材サイトの　PIXTA　さんで販売中です。

興味のある方は作者名　みのすけ　で検索して頂ければ幸いです。

よろしければ是非ご高覧ください。

満月を洗う

著　　みのすけ

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社